

フキ (キク科)

北海道から沖縄までいたるところに自生する。栽培が始まったのは古く、平安時代といわれる。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培		定植 ◎											
		収穫											
		2年目以降		フキノトウ		フキ							

1) 適地

高温や乾燥に弱い野菜です。肥えた、保水力に富んだ砂壤土が適しています。一方、畝間に水がたまると根腐れを起しやすいので排水を良くします。また、木の陰など日陰になるような場所が適しています。

2) 品種

栽培品種として利用されているのは、ほとんどが「愛知早生」です。自生している山ブキの地下茎を植えつけても栽培できます。

3) 作り方

【圃場の準備】1 m² 当たり堆肥 2 kg、苦土石灰 100 g、ようりん 40 g、高度化成肥料 100 g、油粕 50 g を施用し、耕耘した後、幅 150 cm の畝をたてます。

【苗の準備】定植する地下茎は、太いもののほうが茎葉の生育は旺盛になります。地下茎はそれぞれ 3～5 節ごとに切断します。

【植えつけ】3 月中下旬頃の萌芽前に定植します。条間 30 cm、株間 20～30 cm の 3 条となるよう、それぞれの地下茎を寝かせて深さ 5～10 cm の溝を掘って埋めます。定植後は十分に灌水し、乾燥防止のため敷きワラをします。

【灌水】乾燥に弱いので、畝の表面があまり乾かないように、散水チューブなどで 2～4 日に 1 回灌水します。

【追肥】定植後 2 か月ごとに高度化成肥料を 1 m² 当たり 30 g 株間に施します（9 月中下旬ごろまで 3 回）。

【2 年目以降の施肥】毎年 2 月下旬頃に 1 m² 当たり堆肥 1 kg、苦土石灰 100 g、ようりん 30 g、高度化成肥料 100 g、油粕 50 g を施し、表面を軽く耕します。追肥は収穫が終わった 5 月下旬頃と 8 月下旬頃に、それぞれ高度化成肥料を 1 m² 当たり 150 g 施用します。

【収穫】最初の葉が伸長し、次いで 2 番目の葉が伸長した頃に最初の葉を収穫します。収穫し遅れると軸が硬くなってしまうので、注意します。春に生じるフキノトウは、放置しておくとも株に負担がかかるので、すべて収穫しましょう。

4) 病虫害防除

害虫としては、アブラムシ、アザミウマ、フキノメイガ、ヨトウムシやハダニが、病害では、うどんこ病が発生しますので、登録農薬で適宜防除します。